

X I 総合看護研究施設

1 位置づけ

本研究施設は、1991年4月1日に設立された。設立の目的は、建学の精神に則り、看護の分野に関連する諸科学を科学的、技術的、総合的に研究し、看護の発展に寄与貢献することである。

(1) 看護の基礎的検討

看護のユニフィケーションをめざして、看護教育と臨床医学の連携について分析し、総合看護の実践にふさわしい教育施設としていく。

(2) 看護教育に関する研究

- ① カリキュラムの研究
- ② 看護教育制度と方法に関する研究
- ③ 教育評価の測定に関する研究

(3) 看護における関連諸科学との総合研究

- ① 看護の質保障に関する研究
- ② 看護と医療経済に関する研究
- ③ 看護環境の動向（予測）に関する研究
- ④ 生命倫理からみた看護に関する研究

2 組織

構 成 員	
所 長	中谷 啓子（教授）
所 員	小川 景子（准教授）、橘田 節子・蔵本 文乃（講師）、岩屋 裕美・渡邊 真弓（助教）、北室 和茂（副主事）

3 施設概況

総合看護研究施設（J 館）があり、総延べ面積は、施設面積約 30m²である。主な設備は、コンピュータ（ノート型、インターネット利用可能）1台、カラーレーザープリンター1台、プロジェクタ1台、デジタルカメラ1台、ラミネーター1台、ビデオカメラ2台、ビデオカメラ用三脚2台、プロジェクタ・書画カメラ（実物投影機）・取り付け型電子黒板ユニット1セット、60型スクリーン1台である。図書・雑誌等は、図書館と連携し、図書館所蔵資料を活用している。

4 活動概要

設立以来、看護学教育と臨床看護の連携をより深めるために、病院や施設などに勤務する看護職者を対象に、看護の質向上に向けた支援活動を実施してきた。今年度は、引き続き看護職者を対象として看護研究に活用可能な統計処理に関する公開講座、および看護研究を推進するための個別（研究グループ毎）支援活動に取り組んだ。また、2006年度からの継続事業として、本学教員を研究代表者とし学校内外研究者をメンバーとするグループによるプロジェクト研究に対し研究助成金を給付し、研究活動の推進を支援した。

環境面では、教育研究活動支援の一環として、本施設管理の機器・備品の利用促進に向け、教員へ

の周知を図るとともに、長机 6 台、椅子 18 脚を整備した。また、入口扉に「使用中、空室」表示板を取り付け、共同利用の可否などを状況判断しやすい環境を整えた。また、論文集第 1 号～第 20 号の合本製本および PDF 化を行うとともに、在庫の論文集バックナンバーを希望する教員に配布するなど、論文集の整理を行った。

さらに、2007 年度からの継続事業として、地域住民を対象とし、健康生活の維持・向上に向けた啓蒙活動の一環として公開講座を実施し、広く地域に根ざした研究施設としての活動の定着・促進に努めた。昨年度に引き続き、近隣 3 市（平塚市、秦野市、伊勢原市）の広報誌、地域施設等へのポスター・チラシの設置に加え、フリーペーパーへの広告掲載（有料）を行い広報活動の充実を図った。これらの広報活動の効果として、多くの地域住民の参加が得られ、本施設活動の一つである地域住民への健康生活啓蒙活動に関する地域住民の認知度向上・健康支援活動の推進につながった。定員をはるかに上回る申込者があり、参加を断らざるを得ない状況があり、今後の検討課題となった。

今年度の新たな取り組みとして、本学教員の研究活動推進のために、「研究をともに学ぶ会」を発足した。5 月から 3 月まで毎月 1 回（計 11 回）開催し、教員相互の活発な意見交換の機会および研究活動の促進につながる学びの場を提供する機会となった。教員等へのアピールのためポスターを作成し、掲示板に年間を通じ掲示した。

次に、主な実施概要を示す。

1) 公開講座

(1) 看護職者対象

月日／会場	テーマ	参加者数	担当者
7 月 23 日／ 東海大学 12 号館 3 階 305 コンピ ュータ室	エクセルで統計処理 ーエクセルを用いた統計講座『入門編』ー 講師：松木 秀明先生 (東海大学健康科学部教授)	43 名	中谷 啓子、鈴木 陽子、 小川 景子、丹澤 洋子、 阿部 ケエ子、橋田 節子、 蔵本 文乃、後藤 雪絵、 渡邊 真弓、北室 和茂

(2) 地域住民対象

月日／会場	テーマ	参加者数	担当者
11 月 19 日／ 東海大学医 療技術短期 大学講堂	めぞう！脳活性 第 1 部： 講演「わかりやすい脳活性の話」 講師：灰田 宗孝先生（本学学長・教授） 第 2 部：実践編「脳を若々しく保つ方法」 ミニ講義とデモンストレーション 担当：渡邊 真弓先生 岩屋 裕美先生（ピアノ伴奏） 体験内容 ①首肩ストレッチ『もしもしかめよ』 ②判断力・瞬発力『おもちゃのチャチャ チャ』 ③肩こり改善：ふりふりぱたぱた体操 『上を向いてあるこう』	132 名	中谷 啓子、鈴木 陽子、 小川 景子、吉野 由美子、 飯室 淳子、橋田 節子、 蔵本 文乃、岩屋 裕美、 渡邊 真弓、北室 5 名

2) 研究支援

(1) プロジェクト研究

A 申請（採択）状況

番号	研究代表者	研究分担者	テーマ	研究申請期間
11-2201	望月 好子	小川 景子 橘田 節子 石田 貞代	高校生の性教育におけるライフスキル学習のニードに関する実態調査－高等学校保健教育担当教員を対象として－ ↓（2010 年度修正） 高等学校における健康教育への支援に関する研究－高等学校保健教育担当教諭の意識調査から－	2010 年度～ 2011 年度 ※2011 年度 審査により 助成金給付 なし
11-2202	小川 景子	望月 好子 近藤 誓子	母性看護学教科書における“倫理”に関する記述内容の分析	2010 年度～ 2011 年度
11-2203	蔵本 文乃	秋元 とし子 林 真理子 千葉 美果	血圧計のカフのサイズと上腕の太さに関する研究 ↓（2011 年度修正） 血圧測定のプロセスに関する研究	2010 年度～ 2011 年度
11-2203	中田 芳子	後藤 雪絵 渡邊 真弓	看護学生の主体的な禁煙活動の推進	2010 年度～ 2011 年度

B 研究成果（論文・学会発表など）

テーマ	研究者	掲載誌・発表学会（開催地）[巻(号)、頁、年.月]	研究申請期間
地域住民の学習ニードに即した公開講座のあり方に関する研究－内容分析による健康に関する学習ニードの検討を通して－	中谷 啓子 蔵本 文乃 岩屋 裕美	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設 論文集、(21)、p. 23-35、 2012. 3	2009 年度～ 2010 年度
高校生への「生と性の授業」による効果	望月 好子 橘田 節子 小川 景子 石田 貞子	東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設 論文集、(21)、p. 36-44、 2012. 3	2009 年度～ 2010 年度
ロールプレイを取り入れた看護過程演習の効果－その人にあった看護をキーワードとして－	吉田 礼子 秋元 とし子 林 真理子	第 31 回日本看護科学 学会学術集会講演集 (高知県)、p. 438、 2011. 12	2009 年度～ 2010 年度
地域住民の健康な生活を送るための学習ニード	蔵本 文乃 中谷 啓子 岩屋 裕美	第 31 回日本看護科学 学会学術集会講演集 (高知県)、p. 502、 2011. 12	2009 年度～ 2010 年度

高等学校におけるライフスキル教育への支援に関する研究-高等学校保健教育担当教諭の意識調査から-	望月 好子 石田 貞子 小川 景子 橘田 節子	第31回日本看護科学学会学術集会講演集(高知県)、p. 505、 2011. 12	2010 年度～ 2011 年度
---	----------------------------------	--	---------------------

(2) 看護研究を支援する活動

神奈川県内 100 床以上の病院等の施設に勤務する看護職者を支援対象として支援希望者およびグループを募集した。2011 年度は、13 件の応募があり、応募のあった全ての研究を支援した。研究支援期間は、2011 年 7 月から 2012 年 2 月までであり、最大 4 回の面接指導（1 回 1 時間程度）を本学総合看護研究施設において実施した。

研究支援を担当した教員は次の 13 名である。吉田 礼子、鈴木 陽子、中谷 啓子、秋元 とし子、小川 景子、瀧澤 直子、中田 芳子、林 真理子、望月 好子、吉野 由美子、蔵本 文乃、千葉 美果、新村 直子。

(3) 「研究をともに学ぶ会」

発表者を募集し、毎月 1 回開催した。対象者は学内教員であり、参加は任意である。

開催状況は次の通りである。

回	月/日	時間	発表者	テーマ
1	5/25 (水)	17:35-18:20	中谷 啓子	成人看護学における技術試験の評価－学習過程における意義に焦点をあてて－
2	6/29 (水)	17:30-18:40	蔵本 文乃	看護学実習で学生が使用する血圧測定用具に関する研究
3	7/16 (土)	13:00-14:00	橘田 節子	難病の子どもを対象とするキャンプへの参加体験が子どもに与える効果～そらぷちキッズキャンプに参加した子どもの事例分析～
4	8/25 (木)	13:00-14:00	蔵本 文乃	基礎看護学教育における血圧測定技術の教授方法
5	9/8 (木)	17:30-18:30	新村 直子	看護学教員の「家族ケア」の教授に関する認識
6	10/19 (水)	17:30-18:30	鈴木 陽子	特別養護老人ホームの看護職が認識する看護職の役割と必要とする能力
7	11/24 (木)	17:30-18:30	中田 芳子	在宅看護論実習における退院調整部門での学生の学び
8	12/22 (木)	17:30-18:30	中田 芳子	在宅看護論実習における退院支援・調整部門での学生の学び
9	1/27 (金)	13:30-14:30	新村 直子	療養の場の移行に伴う病棟看護師の家族への意思決定の支援に向けた教育的介入の効果
10	2/22 (水)	10:30-11:30	後藤 雪絵	新人看護師はどのようにして「看護理論」に出会っていくのか
11	3/1 (木)	14:00-15:20	中谷 啓子	論文作成：テンプレートへの図表の挿入方法

※テーマは、発表時のものとする。そのため、開催通知のテーマと異なる場合がある。

3) 論文集の発行

2012 年 3 月 28 日、「東海大学医療技術短期大学総合看護研究施設論文集 第 21 号 2011 年度」を発行した。